

分野

4

分野名

教育分野

分野の展望

全体	次世代の社会を担う豊かな人間性と学力を持った子どもが育っているとともに、市民が生涯にわたり学び、それを地域社会に生かしている。
柱1	将来にわたって活躍できる人づくり (教育企画) 良好な教育環境が構築され、青少年の健全な育成が図られている。
柱2	地域に開かれた快適で安全な学校づくり (学校教育) 地域住民・学校・家庭が協力した体制のもとで児童・生徒を育み、快適で安全な教育環境、体制の中で子どもがのびのびと学習している。
柱3	生涯を通して能力を伸ばし、生かせる機会づくり (生涯学習) 市民が生涯にわたって学習し、その能力を発揮する環境が整っている。
柱4	豊かな、創造性ある文化・交流活動の充実 (文化・交流) 市民の文化活動や国内外の交流活動が活発に行われ、伝統文化を培いながら心豊かな生活を送っている。
柱5	()
柱6	()
柱7	()
柱8	()

市役所の使命 (新しい部の使命)

・未来を担う子ども達の生きる力を育むために、地域・家庭・学校による協働の学校づくりを重点戦略と位置づけ、子ども達にとって安全・安心な生活環境の充実、魅力ある学校教育の推進による確かな学力、健全な心身の向上を図る。また、青少年が健全に成長し、地域に貢献できる人材がいきいきと活動できる環境を構築していくとともに、健康で明るい生活環境をめざし市民誰もが参加できるスポーツ・レクリエーションの企画、文化の振興・歴史の後世への伝承も考慮した市民ニーズに応じた生涯にわたる学びの場を提供し、その学びが地域社会に貢献できる環境の整備を進めていく。

柱 1 柱名 将来にわたって活躍できる人づくり

背景 (展望設定の背景にある現状・課題や社会潮流・ニーズ)

- ア. 子どもから大人まで、価値観の多様化が進み、生き方や学び方が多様化している。また、いじめや非行問題、ひきこもりの増加など、児童・生徒が健全に育つ環境も悪化しつつある。
- イ. 江南市においても少子化が進み(データあり)、また、不登校の児童・生徒や非行少年等の補導件数も増加しつつある(データあり)。
- ウ. 子どもから大人まで、生涯にわたって教育を受けることができる環境づくりが求められているとともに、子どもたちが、いじめや非行がない環境で健やかに育つ環境が求められている。

裏づけデータ

データ名	概要	出所	所在
江南市の合計特殊出生率	平成5年 1.44 平成15年 1.29	江南市次世代育成支援行動計画	児童課
少年センター教育相談件数(年間)	平成17年度111件 16年度 85件 15年度121件 平成14年度121件 13年度134件 12年度 99件	内部資料	生涯学習課
非行少年等の補導状況(江南警察署管内)	1,516人(H17年中)	江南警察署生活安全課	江南警察署
不登校の生徒数	平成17年度小学校43人/6,185中学校116人/2790 平成16年度小学校26人/6,088中学校129人/2,861	内部資料	学校教育課
いじめの件数	平成17年度小学校4件(2校)中学校11件(9校) 平成16年度小学校5件(3校)中学校6件(2校)	内部資料	学校教育課

展望 (10年後の地域・市民のすがた)

- ア. 地域全体で子どもたちを育てる体制が整い、多くの人が地域のために貢献している。また、子どもから大人まで望むときに望むべき教育を受ける環境が整っている。
- イ. その結果、いじめや非行が減少し、子どもたちが健全に育っている。そして、地域全体が魅力と活気にあふれ新たな人材を育成する原動力となっている。

市役所の使命 (新しい課の使命)

- ・生涯にわたって学ぶことができる環境を整備し、地域社会に貢献できる人材を育てていく。
- ・いじめや非行のない社会の実現に向けて環境を整備する。

柱 **1** 柱名 **将来にわたって活躍できる人づくり**

成果目標と役割分担

全体目標 **良好な教育環境が構築され、青少年の健全な育成が図られている。**

指標コード	指標	単位	現状値(年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
全 - 1	教育の方針が示され、将来、社会を担う子どもたちが健やかに育っていると感じる市民の割合	%	不明 (H)	▲	▲	▲	人間性豊かな子どもたちが育っている状態を総合的に測定するもの	現状値取得後に設定。必要性、重要性の上から上向きを目ざす。	H19市民満足度の現状値把握アンケート
全 - 2			(H)						
全 - 3			(H)						

個別目標 地域社会が教育に関心を持ち、望むべき教育を受ける環境が整っている。

指標コード	指標	単位	現状値 (年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
1-1	子どもから大人までの教育環境が整っていると感じる市民の割合	%	不明 (H)	▲	▲	▲	知りたいとき、学びたいときに目的を達成できる環境の整備状況を測る。	必要性重要性の観点から上向きを目指す。	H19市民満足度の現状値把握アンケートで取得
1-2			(H)						
1-3			(H)						

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人ひとりが教育に関心を持ち、将来の教育についてともに考える。【個人・家庭】 ・自ら考え、行動する力を育てていく。【個人・家庭】 ・教育についての要望を伝えていく。【個人・家庭】
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人までの教育機会を設け、<u>ライフステージにあった教育の場</u>を構築する。 ・地域ぐるみの教育の必要性を市民に向け訴えていく。 ・<u>市民の要望を受け、必要に応じて検討し、対応していく。</u>

個別目標 子どもが健やかに育つ環境が整い、人間性豊かな子どもたちが育っている。

指標コード	指標	単位	現状値 (年度)	目標値			説明	目標設定根拠	データ取得方法
				H22	H25	H29			
2-1	不登校の児童生徒数の割合	%	小 0.7 中 4.2 (H17)	小 0.3 中 2.7	小 0.2 中 2.0	小 0.1 中 1.5	年間30日以上欠席者数/全学年児童(生徒)数(5/1現在) 小43/6185、中116/2790 (17年度実数)	全国平均:小0.3%、中2.7%(平成17年度数値)に比べ、高い状況にある。 <u>現象</u> を目指す。	学校教育課
2-2	いじめの件数	件	小4 中11 (H17)	▲	▲	▲	学校で起きたいじめの件数(教育委員会の把握数)	社会問題になっており、根絶が望ましいが、目標値達成のために報告を過小評価する事のないよう数値は掲げない。少しでも減少を目指す。	学校教育課
2-3	家庭、学校、地域が協力して子どもたちの健全育成のために取り組んでいると感じる市民の割合	人	不明 (H)	▲	▲	▲	地域連携による青少年育成の取り組みに対する市民の意識を測定する。	現状値取得後に設定。必要性、重要性の上から上向きを目指す。	H19市民満足度の現状値把握アンケート

市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中で、子どもたちの様子を気にかける。【個人・家庭】 ・家庭の中だけで問題を抱えこまず、学校、地域、専門機関等に相談する。【個人・家庭】 ・家庭、学校、地域による連携した取り組みにより、青少年をとりまく環境の浄化と健全育成の啓発活動を推進する。【家庭・教育研究機関・自治会、<u>市民団体</u>】
市役所の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校及び<u>相談対策</u>として、<u>適応指導教室</u>、<u>心の教室相談員</u>、<u>少年センター相談員</u>配置事業の充実を図り、<u>相談を受けやすい体制を整える</u>。 ・地域でのボランティア活動や体験活動の情報提供を行い、青少年の社会性、人間性の育成に努める。